

いのち
生命の水 うるおす未来

アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS 2025年夏

162

特集

35年 空き缶集め学校贈る

● 主な目次 ●

「巻頭言」平和な未来へ地道な奉仕活動	02
特集：35年 空き缶集め学校贈る	04～07
「海外活動ア・ラ・カルト」	08～12
ネパールで子どもの栄養改善／ネパールの丹精込めたコーヒー／フィリピン 清潔保つ活動／マンゴー植林 バングラデシュ／インドネシア・スタディツアー	
「JAFSプラザ」＝国内の活動	13～15
スマトラで植林／子ども祭り／カラフル松原／緑豊かなコスモニケタン／能登支援活動／心の講演会／スリランカ体験	
「井戸ができた村」	16～19
イベントカレンダー2025年夏	20・21
新入会員紹介・領収報告	22・23
2024年活動報告・2025年活動予定	
水／貧困対策／環境／子ども／罹災者支援／国際交流／国内での普及啓発	24～28
2025年活動予定	29
2025年度 社員総会報告	30
「環境コラム」	31

アジア協会アジア友の会とは

アジアに井戸を贈ることから地域の自立を目指す国際協力NGOです。1972年に大阪の若者により結成された国際奉仕グループ「エポス・クラブ」が発展し、1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2025年3月現在、井戸建設（累計2366基）や植林（累計261万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の公益社団法人取得第1号です。2012年から、内閣府の認定を受けた公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、アジア18カ国（インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン）、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、65の現地提携団体を通じ、友情のネットワークが形成されています。日本国内でも、各地でチャリティプログラム、自然環境プログラムや、人材育成、留学生交流など行っています。

アジアネット

JAFS NEWS & REPORTS

2025年夏

162



本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

巻頭言

私とアジアとの関わりは、外食産業へ厨房機器や調理道具・食器などを販売するビジネスを通じて親交が深まりました。2010年頃から関わる個人や法人企業が東南アジア諸国へ進出され始め、それに伴い現地へ赴き、各国の人たちと触れ合う機会をいただきました。

私たち異国人と、その規則の下でともに働く現地のスタッフと、日頃の生活や多様な価値観を話し合ったり、時に生じた衝突もコミュニケーションを重ねて回避したりと、身近に関係を構築できたことは貴重な体験となりました。

平和な未来へ地道な奉仕活動



出口 貴之
アジア協会アジア友の会 監事

訪問先であったジャカルタでは、突然のスコールで飛び込んだ樹木の下で、偶然居合わせた現地の少年が、ズボンのポケットから出したパンをちぎって私に差し出してくれました。キラキラと輝く瞳の少年からの気遣いは、優しさ、分かち合いの温かさ、心の豊かさを感じた出来事でした。

2013年に、カンボジアでの事業をきっかけにJAFSを紹介いただき、以来、国内外の会員との交流や各イベントに参加させていただくことになりました。

特に印象深い思い出は、JAFS

創設者の村上公彦さん一行と、カンボジアに日本の中古自転車を贈る事業に同行できたことです。単なる物資支援だけでは無く、現地の子どもたちや保護者、先生方にも、これからの生活に役立つ明るい希望を届けるものでした。

自転車贈呈式典に参加し、贈った井戸の見学もしました。訪問した先々で感謝の言葉を掛けていただき、カウンターパートのKAFSメンバーとお酒を酌み交わして交流しまし

た。国際奉仕活動と、その活動を支え積み重ねてこられた人と人との絆の深さを実感させていただきまし

現在は、なにわ南地区会員。近隣の方々とのイベント交流会を中心とする活動を行っています。とりわけ、日本国内で「心の問題」から生じているといわれる、引きこもり・不登校、各依存症、自殺、精神疾患者などの増加が著しい事柄に焦点を絞り、関係する講師をお招きして

「心の講演会」を開催しています。

問題を抱える当事者だけではなく、保護者の方々も抱える悩みを共有し緩和して、そして解決に向けて取り組むことを目指しています。まだまだ小さなコミュニケーションではありますが、JAFSの会員募集や活動内容を伝える場所として継続に努める所存です。

世界中が急速につながる一方で、深刻な争いや様々な対立が続く昨今、世界平和や経済格差は大きな課題で、その解決は多くの人々の切なる願いでしょう。

平和な未来を築くためには文化や価値観の違いを受け入れ、お互いに尊重し、異文化間のコミュニケーションも重要とっております。これからもJAFSのアジア諸国との交流や支援を通じて、多文化共生社会の実現に向けた国内外の協力活動に、微力ながらお役に立てればと考えております。

●プロフィール●

でぐち・たかゆき
大阪府出身。大阪市阿倍野区在住。株式会社宝屋代表取締役。
2015年からJAFS社員会員、2016年からJAFS監事。

JAFS会員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。

一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。

一、地球の自然環境を大切に守ります。

一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。

一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。

以上

空き缶集め ネパールに 学校を贈る

特集 富田林・沖田さん夫妻の35年

JAFSの海外プロジェクトを各地区会に応援いただくスタイルを長年とつていますが、モデルとなっているのが富田林地区ラリガラスです。1991年から空き缶回収という地道な協力活動で、ネパールの子どものために校舎の建設費用を集め始められました。1993年ピトゥリ小学校、95

草ぶき掘立て校舎に驚き

今では地域に役立つ人育つ

スリーサンティ小学校は、首都カトマンズから南西方向に175キロメートル。車で7時間かけてスリーサンティ小学校に到着。校門前から大勢の人ばかりで、車から降りる私たちを総出で歓迎してくれました。その先にある完成した校舎を目にして、思わず涙がこぼれてきました。ようやく叶ったネパール訪問です。3月30日、JAFS富田林地区会（大阪府富田林市）の愛称ラリガラスのメンバーと、スリーサンティ小学校の新校舎完成式典に参加し、現地の人たちと共に完成を喜び合いました。これまで、30年以上も継続してネパールに校舎を贈る運動を続け、これで5棟目の完成です。校舎の完成は富田林地区会の皆様のご協力で実現できました。校舎を贈つ

た小学校はこれで5校目です。今回の完成式には、富田林地区会から5名、JAFSスタッフ1名、ネパールスタッフ1名の計7名が参加しました。完成式の会場は日よけテント張り。長時間の式典でも大丈夫ようにしてありました。音楽隊の歓迎演奏に始まり、司会者から紹介を受けました。校舎除幕式から表彰式まで進み、校長先生や村長など学校関係者の演説、歓迎の演奏や舞踊が続きました。終わり近くになって私の挨拶になりました。「私たちJAFS富田林地区会は、決してお金持ちではありません。私たちはアルミ缶を集めて売ることによって収益を得ました」左写真。また地域の人たちから衣類などの不用品を寄付してもらい、滝谷不動尊という寺の縁日や地



▲新校舎完成式典の
会場の様子を動画で
ご覧ください。

やすい机や椅子も気に入っています。◇レシナ・ボハラ この新しい教室にいと、とても幸せな気持ちになります。こんな最新の教室で勉強できるとは思っていませんでした。このご支援は忘れません。◇スニル・グルン

新しい教室がとても気に入って、よく絵を描いています。素晴らしい教室で学べるようにしていただき、ありがとうございます。このような支援を多くの人のためにお願いします。

きつかけは裸足の売り子

私とネパールとの関わりは、30数年前の1991年に、第2回ネットワークセミナーに参加してからです。カトマンズとポカラを会場として行われました。当時のカトマンズ市内は街灯もなく、舗装もされていませんでしたが、今はLED街灯がまぶしく輝き、道路も舗装されていました。これならピトゥリ村やポカラに行く道路も舗装されていると期待しましたが、大部分は未舗装で、拡幅工事が盛んにされていました。

91年の訪問時は、ポカラ周辺をトレッキング。現地の方と交流しJAFSネパールのメンバーと知り合いになり、

新しい校舎で勉強することが楽しくて仕方ない生徒たち。6月14日、ネパール、ナワルプル郡、スリーサンティ小学校、新校舎の前にて、地域の催し会で売って建設資金を貯め、この学校に校舎を贈ることができました。耐震性の高い鉄筋コンクリート造りです。この学校で皆さんが勉強に励むことを望みます」と挨拶しました。そして日本から運んだ学用品（筆箱・鉛筆・鉛筆削り・消しゴム）セットを、約150名の生徒に、地区会5名



現在も数人の方と交流があります。その時、ポカラでのトレッキングで私の胸に焼き付いたのは、私たちのグループに果物やお土産を売りに来る子どもたちが、幼子にも関わらず赤ちゃんを背負って裸足だったことです。学校にも行かず物品売りに来る子どもたちは、どんな生活をしているのか、大変興味を持ちました。聞くと、子どもたちは家族の中でも重要な働き手で、働いて家計を助けているのです。まずゴム草履を何足贈ればいいのかと深く深くに考えました。私の全財産で何足買えるのか。でも消耗してしまえば終了だな。と。考え抜いた挙句、「教育が必要」。従って学校を整えようということで、その運動をこ

れまで続けてきたのです。

学校へも訪問しましたが、校舎は草ぶき屋根の掘立て小屋でした。その時「何か私にもできることはないか」と考えていました。

帰国して市のビンヤカンの収集日にアルミ缶が多く捨てられているのを見て、アルミ缶を集めてスクラップ屋に売りに行きました。するとかなりのお金になりました。アルミ缶を収集し始めた頃は車も無く自転車にも乗れず、ゴミ袋を前後に1袋ずつ積んで自転車を押して持ち帰っていました。収集場所で回収の職員さんと出会ったら「時間があつたら手伝ってあげるのになあ」と言ってくれました。今はもう持ち帰れませんが、その後はご近所や有志の方々が趣旨に賛同して家まで届けてくださるようになりました。そうして集まった缶がある程度たまったら業者に買い取ってもらいます。

アルミは国際商品で値段の高低が激しく、安い時は1kg40円、高い時は200円。その他、地域の方から頂いた不要品や手作り手芸品を、滝谷不動尊の縁日で販売しました。その収益

で100万円ほど貯めると、ネパールに校舎を建てる資金とし、1棟、また1棟と、これまでピトゥリ村に3棟、トゥクチャ村に1棟を建てました。

以前は1棟100万円ほど建てられましたが、最近では、インフレと耐震構造を求められる影響で建設費が高くなっています。今回は、校舎1棟で約300万円、机・椅子・ホワイトボード・ロッカーなどの備品で約100万円、計400万円ほどかかりました。

30年前に建てた校舎は今

スリーサンティイ小学校の完成式の前、1995年に2棟目の支援として建設したピトゥリ村のラズマンディル小学校に立ち寄りました。試験後の休みの日で生徒たちは居ず残念でしたが、学校の現況をつぶさに見学し、屋根がかなり傷んでいて雨漏りがしていると報告を受けました。校長先生は若い先生に代替わりしていました。みんな大切に校舎を守ってくれていることが、小一時間ほど先生方と交流して感じられました。

以前は学校に行かない子どもの方が

多かった地域の学校が、今ではこの郡の全小学校中、実力テストでトップの成績を収めるようになっているとのこと。この学校は2回目の訪問でしたが、以前と比べると、先生たちがこの学校で誇らしく教師をしている様子が

絶滅危惧種のワニやサイがいる自然

チトワン国立公園は、ネパール南部のタライ平原に位置しており、野生動物の宝庫です。中でも絶滅危惧種のワニであるインドガビアルやインドサイは有名です。運が良ければ見る事ができます。

私は4つ星ホテルに宿泊していたので、川下りや象ライドによる森散策が組まれていました。

午前中はホテルの車で川下り乗り場まで送ってもらい、丸木舟に乗りしました。シルクコットンツリーの巨木をくりぬいた船は不安定で、船頭は低い姿勢で乗り込みなさいと指示します。

出発すると、色鮮やかな野生の鳥をたくさん見ることができ、ワニもあちこちで甲羅干しをして体温を高め

伝わってきました。もう一つうれしいことに、JAFS里親の会で私が支援をして何とかこの学校を卒業した女の子が、新年度から教師として戻ってくると紹介くださいました。地域のために教師を輩出できているのです。

川下りの終点には象の保護施設がありました。象の飼いや繁殖施設を兼ねており、ここで育てられた象は、象ライド用に調教もされます。象は一日に200〜250kgの餌を食べるので、象使いや飼育員は餌を作るのに忙しいです。餌は、稲わらの中にモミを入れて眉型に作ります。地元ではモミと呼んでいます、なぜなら餃子に似たネパールの食べ物のモミに似ているからです。

ホテルの周辺を散歩していると象使いの家があり、象の餌モミ造りを体験させてもらいました。稲わらの作業は、しめ縄を作ったりして慣れています、眉型の稲わらの中にモミを入れます、眉型の稲わらの中にモミを入

してもらい、売店で買い物ができました。昨日空港で買ったウイスキーは保安検査で没収されました。予定より24時間遅れて出発でき、3時間半程でカトマンズ到着。AFSネパールの方たちに出迎えられました。

もう一つのトラブルは、最終日の4月3日のヒマラヤ遊覧飛行。朝5時ごろにホテルを出て、カトマンズ空港からブッダエアの飛行機でヒマラヤ遊覧飛行に出発すると、少しのフライトで雄大なヒマラヤ山脈が見えてきました。行きと帰りで反対側の景色が楽しめました。しかし90分程度の予定が、120分経過しても一向にカトマンズに帰りません。空港が見通し不良のため着陸できないのです。飛行機の燃料が少なくなったため、給油のため近くの空港に着陸しました。その後カトマンズ空港が開港され、約2時間遅れて到着しました。お陰でホテルに荷物を取りに行くことができず、スタッフに空港まで運んでもらいました。

最後にカトマンズ空港の保安検査で荷物が引っ掛かりました。お土産に岩塩を30袋買ってスーツケースに入れていたら、税関職員に連れて行かれ、怪しい物が入っていると疑われてスーツケースを開けて調べられました。岩塩だと分かり、無事解放されました。このようなトラブルも旅の思い出です。

(JAFS会員・富田林区会

沖田 弘子・文明)



て作るのは難しかったです。このように旅は、地元の人々と触れ合い、また体験することが醍醐味です。

象の背中から見る景色

いよいよ午後は象ライドです。ホテルのすぐそばに出発基地があります。象は真近で見ると、ものすごく大きいです。2階に上がるような階段を上がり、象の背中にある4人乗りの籠に、四方の柱に足を入れて乗ります。この乗り方なら落象の心配はありません。

最初は、幅広い川を渡ってチトワンの森に入っていました。象使いが向うにクジャクが居ると教えてくれますが、羽根を広げていないと茶色の鳥です。象の背中は、王様になった気持ちになります。私たちの象使いは、クジャクの羽根を見つけて象に拾わせ、我々にくれました。象は鼻で何でも器用

象の背中に乗って森を探索する沖田ご夫妻。高い位置からだ、たくさんの野生生物が見つけられる。ネパール、ナラヤニ県チトワン郡、チトワン国立公園

トラブル続きも旅の思い出

今回の訪問では3月28日に関空を出発しましたが、その日にミャンマーでM7.5の大地震が発生しました。タイのバンコクまでは無事に到着しましたが、バンコクからネパール・カトマンズ行きの飛行機が欠航になり、バンコクに一泊することになりました。タイ航空の手配で、バンコク市内のノボテルホテルにバスで行きました。

その際空港でパスポートを預けさせられ、これによりバンコクでの一泊滞在が大変不自由なものとなりました。

両替するにはパスポートが必要だったのです。それを知らずドルなら通用すると思い込み、現地のコンビニでお茶を買いおとしたら、ドルも円も通用しません。仕方なく諦めてホテルに戻る途中で、現地の方がペットボトルの水を5人分持つて追いかけてきて私たちにくれました。この時期のバンコクは大変暑いので大いに助かりました。

翌日までホテルに滞在することは苦痛でしたが、午後2時ごろに空港行きのバスが出て、空港でパスポートを返

子どもの栄養改善、私たちの手で

「栄養ある食事で、農村の子どもの健康を守ろう！」を自分たちの手で！と始まった、ネパール農村地区の人たちの栄養改善事業2年目の活動です。現地の女性リーダーたちは3年間の活動が終了すると、地域で食事改善

普及員（以下、食改）として栄養改善活動を始めます。そのためのスキルを身に付ける講習会を実施しました。「一人分の適量はこんなに少ないですね」、「手のひらで重さの感覚を覚えると一人分の適量がわかりますね」、「家に計り器がないのですが、手を使って計れるのですね」。女性たちの様々な声が飛び交っています。国立トリブヴァン大学栄養学科の教室で実施されている、地域の食改育成の講習会です。

ネパールの地域で活躍する女性リーダー

これまで農村地域に向いて巡回指導活動を行ってきたが、女性たちに、より意識を持って食改を目指してもらうためには設備が整っている場所での集中講習を行うことが必要ではないかーとの意見が出て、3月3



日（5日の3日間、大学内で実施しました）写真。食改候補生の女性たちが受けた教育は中学や高校までのため、初めて大学に足を踏み入れることができ、そのことから士気が高まっている様子。彼女たちの集中力を高め、顔つきがぐっとよくなっています。この講習では、乳幼児母子、低学年児童、高齢者に対して栄養指導ができるよう、栄養の役割から、一人当たりの量が分かるための手計りの方法、栄養摂取しやすいメニューの調理およびデモンストレーション方法を学びます。今後、地域の女性委員会で知識の共有を行い実践につなげていきます。講習後に村の巡回で会った食改候補生のサラソワティ・ダンガルさんは、「大学の講習では、これまで受けた講習の何倍ものことを教わりました。なんといっても手計りはみんなに役立つ



▲巡回指導の様子を動画でご覧ください。

つから、村に帰ったらすぐに友達を呼んで教えたんですよ。伝えた友達たちもとっても喜んでくれて、調理時に使ってくれています」と話しました。読み書きができない女性が多いので、本から学ぶことができないため、自分が得た知識を隣近所の人たちに伝えることで、女性たちが家族の健康を守ることもできる。それが女性たちの自信にもつながってくれたらと願っているとのこと。女性たちのさらなる活躍を支えていきたいです。（AFSネパール ビベシ・シュレスタ）

※この事業は、味の素ファンデーションの助成により実施しています。

丹精込めたコーヒーが実ったぞ

コーヒー植林を実施し、栽培が広がりつつあるネパール・インドラワティの農村地域で、赤い実がなっているのを目にするようになりました。コーヒーはこの地域に適していると知られながらも、しっかりと根づくのか心配で

したが、ようやく実り始めています。10区から始めた栽培は今、1区、2区、3区、7区、9区、11区、12区と、全部で12区ある内の8つの区に広がっています。コーヒー栽培を広げていくには、コ

ーヒーを好きになってもらわなければならないことですが、今年のコーヒー栽培講習会にはカトマンズのバリスタに参加してもらい、本格的なコーヒーをいれてもらうことにしました。ネパールはチャイ文化のため、朝の一杯はお砂糖とミルクが入ったチャイ

から始まります。コーヒーはインスタントの粉で入れたものしか飲んだことがないという人たちがほとんど。本格的なコーヒーに、オー！と驚きの声を上げました。「コーヒーって、苦い飲み物だと思って敬遠していました、こんなに香りが良くて、飲むとスッカリするとは思っていませんでしたよ」。「自分の家のコーヒーが実ったらまず自分で飲んでみたくなりました」とコーヒーの美味しさに気づいてくれる人が、始めたころと比べて圧倒的に増えています。

この村のコーヒーを多くの人に知ってもらって村を有名にするために一役買いますよ」と、今年も50本ほど追加でコーヒー苗を植樹したそうです。コーヒーは根をしっかりと育てると100年以上実をつけ続ける、と言われていきます。孫やひ孫たちへ引き継ぐこと

清潔保つ活動広がる

フィリピン62村の子どもに

3月28日、フィリピンのソルソゴン州マトノググ町の教会で、地域の子どもたちへのCLAYGO (Clean as You go)を始めとする活動報告会が開かれました。地域のリーダーや先生、保護者たちが約70名集まり、活発な意見交換が行われました。

掃除する方法を訓練するこのプロジェクトに、とても協力的です。3年前に1つの村で始めた活動を62カ村に拡げることができました。新たに活動始める拠点では、CLAYGO活動に関するオリエンテーションと、教材や必要な備品（ポスター・ゴミ箱・掃除用具・ベルなど）が提供されました。

地域の環境を改善するために導入された「CLAYGO」。児童発達ワーカーや社会福祉開発事務所との連携のもと、62人のリーダーを選出。昨年度はマトノググ町の46カ村では1343人、隣のサンタ・マグダレナ市の16カ村で351人、合計1694人の小学生がトレーニングに参加しました。ソルソゴン州はコロナ以降、「カリニサン（清潔）」に力を入れていきます。子どもたちが、手洗いやうがい、水浴びなど自身自身を清潔に保つこと、学校や家、周辺地域を自分たちで

報告会の始めには環境教育セミナーが開かれ、地球環境の状況と気候変動について議論されました。村の気象状況の変化やその他の環境問題によって、日常生活が具体的にどう変化したかを振り返りました。台風や大雨による洪水、ゴミ問題、農場や漁場の荒廃、生活の混乱といった問題が共通してあげられました。被害を少しでも少なくするために、日頃からできる活動や備えも話し合われました。CLAYGO活動報告は、メンバーの



ネパールでの栽培 8つの区に広がる

長年小学校で校長をしていたスッダールさんは、引退後の昨年、コーヒー栽培のことを知り、自分の畑のあちらこちらに苗を植えました。「これまでは子どもたちを教育によって成長させ、この村のために役立ってほし」と願って教師をしてきましたが、これからは愛情を持って、コーヒーを育て、



％）の森林が消滅したと示されています。ガジプール県でも同じような状況です。

この状況を少しでも改善するため、私たちの植林は、今後も続けていかなければなりません。植林活動に参加した子どもたちが、国の環境を守る

ため活動する人に育ってくれるように期待しています。

（BDPバビル小学校校長
アモール・クルゼ）

※この事業は、2024年度連合愛のカンパ中央助成事業として実施しました。

アイデア満載で拠点毎に特徴があり、とても見ごたえのあるものでした。写真。チームの発表が終わる度に大きな拍手と喝采に湧きます。

保護者対象アンケートの結果も共有されました。幼稚園教育にCLAYGOを取り入れることは、子どもたちがゴ



▲カマチレス村の子どもたちのCLAYGOの動画をご覧ください。



ミを拾って分別ゴミ箱に捨てる、片付ける、物を返す、秩序を保つ、協力するといった掃除の習慣を身につけるのに非常に効果的。との回答が多く寄せられました。片付けの歌を歌いながら行い遊びの要素も取り入れることで、より楽しいものになります。動画。子どもたちが基本的な生活スキルを学び、自身と環境を清潔に保つことに貢献していると周囲の大人が高く評価すれば、子どもたちが笑顔で積極的に取り組みます。子どもの規律・自立心・責任感につながります。

懇親会では、日本の給食・掃除・リサイクル・自然環境・川や海の色・森・教育などについて様々な質問があり、活動について語り合う楽しい一時を過ごすことができました。

住民主体の活動を今後も積み重ねることで、マトノックの中で自然と共存しながら地元で収入を得て、村人が暮らせる持続可能な地域創りを目指します。

「マンゴー食べたい」605本植林 バン格拉の子たち、治水も願って

「先生、このマンゴーの苗は私の身長より大きいですね。どれぐらいの高さに育ったらおいしい実をつけてくれますか?」、「苗木は重いですね。今日持つてみるまで、こんなに重たいものとは知りませんでした。植える場所まで大切に運んで根付かせたいです」。マンゴーの苗木を持った生徒たちそれぞれが感じたことを発表してくれます。2月6日、これから生徒たちの家や近隣への植林に出發です。写真。

バン格拉デシユのBDP (Basic Development Partners) 学校では、『自然科学教育を通して地域の自然環境を守るため、生徒たちの手で植林すること。同時に、植えた木の維持管理を指導し、環境教育がそれぞれの学校で定着すること』を目指した活動を順次行っています。今年はガジプール県のバビルエリアで700本、ネトロコナ県で605本の植林をしました。生徒たちは、自分たちが植えた木に

す。（JAFSスタッフ 岡本佳子）

※この事業は、第19回TOTOWater環境基金助成事業として実施しました。

実るマンゴーを食べられる日が一日も早く来ることを願っています。私たち教師は、この地域に一本でも多くの木が茂って欲しいと切に思っています。

生徒たちがマンゴーを食べることでビタミンAやC、βカロテンなどの栄養や食物繊維を摂れ、元気に成長することにつながるのももちろんですが、国土を守るためにも木を増やすことが必須なのです。

バン格拉デシユでは、毎年雨季には国土の半分ほどが冠水します。昨年7月から9月に、大きな洪水が襲いました。私たちの暮らしに直接的な被害を与えるのみならず、木々も大きな打撃を受けます。加えて、右肩あがりの人口増加（1億7119万人（2022年、世界銀行））と経済発展のために、森林伐採が進んでいるのです。環境・森林・気候変動省の18年公表データによると、2000年に約262万畝であった森林が、15年には約230万畝まで減少。15年間で約32万畝（12

行ってこそ感じるごみ山の臭い バリ島ビーチクリーンでも学び

2月20〜27日、「インドネシアの教育と環境を実感するスタディツアー」に、大学生7名、大学院生1名、社会人1名の計9名が参加しました。

ジャワ島の南タンゲラン市では、小生と文化交流、大学生と意見交換、ごみ山見学、周辺の村散策とクリーン活動、交流クッキングなど。バリ島では、海がめ保護センター見学、マングローブ植林、ビーチクリーン活動、ごみ処理モデル施設見学、大学生と意見交換、小学生と文化交流や環境教育、棚田でクリーン活動など行いました。

海外は初めての大学1年生から、海外協力隊やインドネシア在住経験がある方まで様々でしたが、それぞれに多くを学びとられたようです。

龍谷大学からは、大学の海外体験学習プログラムを通じて4名（参加当時4年生 矢谷愛希、3年生 後藤彩季、2年生 橋本怜亜、2年生 尾関凌）が参加。印象に残ったことを2つずつ挙げてくれたレポートから抜粋して、現地の様子をお伝えします。

他の参加者も含め大多数の人が一番印象深かったとアンケートで答えたのは、ごみ山見学でした。

「とても濃く充実した時間を過ごし

た中で特に印象に残った一つは、ジャワ島のごみ山の風景。事前の下調べで、ごみ山の動画を見た時は、日本では見られない光景に現実離れしたもののよう感じたが、現地で実際に自分の目で見て衝撃を受けた。動画では感じなかった、ごみの強烈な臭い、山から流れ出た汚水の黒さ、ごみをかき分けるシヨベルカーが小さく感じるほどのごみ山の大きさは異様な光景だった」（橋本）

「ツアーで考えさせられたことの一つ目が、環境面でインドネシアは発展途上であり、日本では考えられない状態が街中や暮らしに見られたことです。特に印象に残っているのはごみ山。ごみ山に行くまでの道やごみを積んだトラックの数、そして捨てられているごみの量は日本で見られないような光景でした。ごみは分別されておらず、ものすごい臭いがしたことを今でも鮮明に覚えています。現地の方から話を聞く中で、日本の環境システムはとも優れていると思いました。インドネシアでは、一人一人の環境に対する理解の薄さや危機感のなさが根本的な問題だと感じました」（矢谷）

「一番学んだことは、環境教育の重



国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ。裏表紙にアドレス、連絡先

スマトラでマングローブ植え 3R考える

4月23日から27日まで、インドネシアのスマトラ島バンダ・アチエで開催された植林ワークショップに参加し、小学校3校も訪問。持続可能で環境にやさしい町づくりや地域社会について一緒に考えました。2019年2月の初回ワークショップではJAFSから3名参加、20年1月の2回目は5名、3回目の今回は8名が参加しました。いずれも現地提携団体のAFSアチエが主催する生態系保全活動であり、津波・高波・風による沿岸浸食を防ぐためのマングローブ植林（汽水域に引き潮時に植林）でした。現地の若者が約140名参加。私たちも加わって約1200本を植えました。5年後、10年後に大きく育つのが楽しみです。アチエは04年12月26日に発生したスマトラ島沖大地震の震源地に近い街で、約23万人の犠牲者が出ました（周辺地域・国を含む）。今は復興し、津波博物館や震災遺構などもあり自然の脅威を伝えています。

自然との共生のためには、小学校3校を訪問して子どもたちと一緒に、ごみを減らす Reduce、再利用 Reuse、リサイクル Recycle にどのように取り組むかの「3R」を一緒に考えました。今回のインドネシア訪問での環境保全活動は、インドネシアのみならず、我々もさらに自覚し、継続的にチャレンジする課題だと思いました。

（JAFS会員 伊藤勝）

子ども祭り支えるシニア



毎年恒例の中山寺（兵庫県宝塚市）子ども祭りへの出席。今年は5月4日に開催された。ヨーヨー釣りや綿菓子・きつねうどんの販売だけでなく、アジアの子どもの絵画の展示や、水くみの大変さを体験する「水がめ運び」など、JAFSらしいコーナーも設けた。重い水がめ運びを終えた子には手作りワッペンのご褒美もあり、小さい子たちに人気だった。

出展を支えたボランティアの多くは70歳以上のシニア。インターン学生2名と、ボランティアのお孫さんの中学生や小学生も応援に駆けつけてくれ、和気あいあいとした時間を過ごすことができ、JAFSらしいイベントだった。この売上げはアジアの子どもの教育支援に充てられる。

（JAFS会員 大本和子）

要性と環境問題の現状である。ジャワ島では、日本の教育を参考にしたりひかりスクールに滞在。環境教育に力を入れている。日本では幼い頃からごみ分別の習慣がついていたり、ポイ捨てし

ないという共通認識があるが、インドネシアではプラごみも生ごみと同じく土にかえると考える人も多いそう。そのため学校で分別の重要性や、ポイ捨てが良くないと伝え、少しずつ認識



オープンダンピング方式の市営ごみ処理場。売れるごみを拾いに来る人もいる。市職員も現状を変えたいと問題意識を持ち始めているのだが=2024年2月21日、インドネシア、ジャワ島、南タンゲラン市

を変える取組みをしている。ごみ処理場（ごみが積まれただけのごみ山）を見学したが、ごみ山周辺の臭いはとても強烈で、現地のごみ処理の問題の深刻さを体感し、環境教育で現状を変える必要性を感じた」（後藤）

教育の面から、インドネシアの方が良いという点を印象に残した人もいました。ツアー後の4月から中学校教員になることが決まっていた学生です。

「考えさせられた二つ目は、インドネシアの子たちが目をキラキラさせて学校生活を送っていたことです。日本では勉学に囚われ、学校がいつしか楽しい場所ではなくなってしまっていると考えます。来年から教員になる立場として、子どもたちが学校で、笑顔で楽しく過ごすには何が必要かを考えるきっかけになりました」（矢谷）

現地でのクリーン活動からも体得したことがあります。

「印象に残った一つ目はバリでのビーチクリーン。渡航前の下調べでインドネシアのごみ問題は少し理解した気でしたが、現地を訪れ、理解が浅かったと思い知らされた。散乱ごみはペットボトルや菓子袋、ズボンなど多岐にわたり、捨てるも拾っても減る気がせず、辛いほど無力感を感じた。ごみを減らすために分別したり処理場を増やしたりと、根本からごみ問題にてこを入れる重要性を身をもって知った。二つ目はマングローブ林でカヌーに乗っ

てごみ拾い。プラごみが根にきつく絡まって全く拾えなかったのが印象的だった。またインドネシアに流れ着くごみは他国からのもの含まれるそうで、ごみ問題は国単体でなく周りの国とも協力して解決する問題だと思った。現地を訪れ現状を肌で感じた人にしか分からない危機感というものが確実にある」（尾関）

「印象に残った二つ目はバリ島のビーチクリーン。数人進みだけでごみ袋が一杯になるほど、ごみが落ちていた。毎日拾い続けるのは困難なため、根本的に『ごみを捨てない』ことが重要で、ごみに対する適切な考えや意識を広めることが大切と気づくことができた」（橋本）

「バリ島では海洋環境問題について学んだ。ウミガメは海に浮かぶプラスチックのごみをクラゲと誤って食べて死んでしまうこともあると知った。海は世界全体でつながっており、日本のごみがインドネシアのウミガメにも影響すると思うと、海洋ごみの問題は一つの国だけでなく全世界で考えなければと感じた」（後藤）

インドネシアの大学生と日々の暮らしについて英語で交流したり、ごみ問題について意見交換し「日本と文化や価値観が大きく異なる中で、共通点もあると分かり、視野が広がった」との感想もありました。百聞は一見にしかず。（JAFSスタッフ 川本裕子）

カラフルなルーツの子が交流した場 新たな場所ですながり続く

私たち「カラフル松原」は、大阪府松原市で2019年に地域での国際交流活動を開始。21年から4年生以上の小中学生を対象に、「カラフルKIDS」として、外国にルーツのある子どもたちと仲間で作る、みんなの居



場所づくりを目指して月1回の出会いの場を作ってきました。
地域におられる外国にルーツのある方から、その国の文化や生活を学んだり、遊びを教えていただいたりする中で、感想や自分のことを話して交流しながら、仲間の輪を広げてきました。時にはお菓子づくりにも挑戦し、盛況でした。
子どもたちに「自分にとってカラフルキッズとは？」と問いかけると、こんな声が集まりました。
「カラフルとは、みんなで文化の違いとか関係なく仲良くできるところ」
「自分のルーツを大切に自分で自分のことを誰でもたくさん知ること、自分のことを好きになること」
「交流の場所。やっていること楽しいし、知らない人とも会えた。友達に誘われて来てよかったと思っています」
残念ながら、2025年3月をもって活動を終えることになりました。子どもたちも、関わってきた私たち大人も、カラフルで得た勇氣や元気を胸に、それぞれの場所で、人と出会いつながらを作っていければと思います。
(JAFS松原会員 谷奥恵)

32年前の更地↓今は緑豊かな学校

4月19日、大阪府のクロスパル高槻で日印友好学園コスモニケタンスクール訪問報告会を行いました。コスモニケタン支援会の方や、JAFS会員・未会員の方、33名が参加されました。私は今年3月にプライベートでコスモニケタンを訪問しました。写真。報告会では、コスモニケタンスクールの様子、現地でのインタビュなどをスライドで説明したところ、とても熱心に聞いていただきました。

今回の訪問は、32年前に、学園建設予定地に植林をするワークキャンプで



行って以来でしたので、緑豊かに発展した学園を見てとても感動しました。掃除を生徒がする、土足禁止という日本式の教育を取り入れているためか、学園内はゴミもなく、非常に清潔でした。親御さんからは、公立の学校ではなく、より良い教育を受けさせたのでコスモニケタンを選んだとの声。卒業生からは、ここに通って本当に良かった、自分子どもも通わせたいとのこと。この日印友好学園の意義を、強く感じました。
(JAFS高槻会長 伊藤エリサ)

能登の人と交わり 活動に意欲

3月1・2日と15・16日の2度、輪島市の仮設住宅で炊き出しをしました。2度目の訪問時は炊出しに加えて、竹中真さんによるチャリティーコンサートを、ボランティアとしてJAFSスタッフと共に行って来ました。「美味しい食事をありがとう」、「素晴らしい演奏でした。コンサートをありがとう」、「遠いところよく来てくれたね」。今回も現地の方々からたくさんのお声をいただきました。避難生活が大変な中でも、私たちの

心の講演会〜日本の子どもたちは今

5月31日、大阪市平野区のノアノアカフェにて「第11回ノアノアカフェスタ・心の講演会」が開かれ、終始、心が一つとなった有意義な時間が流れました。スタッフの柿島さんによるJAFSの説明後、NPO法人こずえのつばみ代表の神野哲さんが、発達障がい者や引きこもりの現実、年々増加する不登校の問題などを浮き彫りにしたお話と、今後の対策について語られました。午後は、日本の里親制度についての現状を一般社団法人家庭養護促進協会の福山実代さんが語られました。

神野さんの講話後、涙を流して質問する参加者もおられ、皆さんがそれぞれの立場で、様々な問題に取組んでおられることが理解できました。大きな反響をいただきましたので、継続の開催を検討したいと考えています。

なお今回は初めて、昼食で18種類の食材による完全栄養食サラダを召し上がっていただきましたが、プロデュースされたパーソナルトレーナーの田沼優一さんのお話も交え、健康的で有意義な食事を味わうことができました。
(なにわ南地区会会長、

ノアノアカフェ代表 メ木 泰輔)

日本で2時間の スリランカ体験

3月15日、昨年のスピーチコンテストで優勝したサンドウニカさんを講師に迎え、スリランカの食文化や服装、お祭りについて学ぶスリランカ講座を開きました。

フルネームが26文字にも及ぶ名前の意味や、スリランカの暮らしについて、多くの写真を用いてお話しいただきました。食事の写真はどれも美味しそうで、日本では見かけることのない食材も多く、21名の参加者から様々な質問がとびました。サンドウニカさん



おすすめのスリランカ風パンケーキもふるまわれ、ココナッツの甘い香りと美味しい紅茶で、一時スリランカの雰囲気を感じることができました。

スリランカのお祭りの写真は鮮やかで圧巻でした。仏教・ヒンドゥー教・イスラム教につながるお祭りはそれぞれに大切な意味があり、初めて知ることも多く、楽しい学習の場となりました。

スリランカ・サルボダ友の会では、スリランカに親しむ講座を今後も開催していきます。次回は美味しいスリランカレストランで料理を楽しむ会を企画中。ぜひご参加ください。
(スリランカ・サルボダ友の会会長 小澤勇)

下痢にならず満足

ハヤトプールBDPスクールの生徒だけでなく周辺地域の住民は、新しく設置いただいた井戸から、安全な飲料水を、簡単に無料で手に入れることができるようになりました。以前は清潔ではない水を飲まざるを得ず、それにより水系感染症に悩まされていました。下痢や胃腸疾患などの病気にかかるリスクが減り、大変満足しています。村人たちは、井戸と周辺地域を維持管理する委員会を結成し、新しい井戸が長い間使い続けられるよう責任を持っています。

ジャマルプール県ハヤトプール村ハヤトプールBDPスクール 受益者…1600世帯8000人
井戸の形式…ポンプ式（深さ60m）



【寄贈者】前田みどり様

井戸は住民が管理

この地域では、年間を通して安定して清潔な水を手に入れることはできませんでした。住民は雨が降のを待つか、清潔な水のある遠方まで水くみに行かなければなりませんでした。この度、長年の夢だった井戸が、BDP小学校の敷地内にできました。天王寺高校様がJAFSを通して寄贈くださったのです。この井戸は、住民の生活向上に大きく貢献してくれます。井戸と周辺地域は住民たちが責任をもって管理していきます。本当にありがとうございます。

ジャマルプール県ジョドムルラ村ジョドムルラBDP小学校 受益者…1200世帯6000人
井戸の形式…ポンプ式（深さ62m）



【寄贈者】天王寺高校AN様

水くみいらずで学校通える

この村には井戸がなかったために、遠くの水源まで歩いて水くみに行かなければならず、毎日多くの時間を費やさざるを得ませんでした。水くみのために学校を休みがちだった子どもたちも、井戸ができた今では毎日学校に通えるようになりました。また女性たちも空いた時間を使って、野菜作りや他の仕事が始められるようになりました。安全な水を飲むことができ、水が原因の病気に悩まされることがなく、家族、特に小さな子どもたちが健康でいられることは大変な喜びです。



北中部州ポロンナルワ県シンパプラ村 受益者…17世帯76人と近隣の村人
井戸の形式…露天式（深さ7m）

【寄贈者】スリランカサルボダヤ友の会様

いのち
生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真をお届けし、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基ご寄贈の場合に必要な費用■（2024年4月改定）
インド=60～80万円 スリランカ=40万円 バングラデシュ=25万円
ネパール=20万円（パイプライン=25～400万円）
※現地の建設・資材費上昇により改定。3年間のメンテナンス費、現地管理費を含む。
■寄付を合わせて1基寄贈の場合^{New}■ 1,000円以上の任意額のご寄付で井戸建設にご協力いただけます。20万円以上のご寄付でネームプレートに記名いたします。（フィリピン・カンボジアでの井戸寄贈は現在見合わせ中）

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
06-6444-0587へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで
井戸ができた村

一年を通して安全な水

村の近くには真水が手に入る運河や池がいくつかありますが飲用には適しません。また郡を流れるコンション川は、モンスーンの時期に大雨が降ると氾濫し、それ以外の時期には水位が下がって淀み、水は底から濃い茶色に変わり濁るので、飲料用には使えません。この度ノアパラBDP小学校の主な水源として、井戸を設置いただきました。新しい井戸からは、一年を通して安全な飲料水が得られ、近隣住民が、無料で容易に利用できるようになりました。

【寄贈者】HONG KONG FRIENDS No.15様



ネトロナ県バルハッタ郡ノアパラ村ノアパラBDP小学校 受益者…812世帯4075人
井戸の形式…ポンプ式（深さ115m）

【寄贈者】(株)グローアップ様

ジャマルプール県ボクシゴンズ郡スルジャナガールボクシゴンジBDP小学校 受益者…1050世帯5250人
井戸の形式…ポンプ式（深さ40m）



ヒ素汚染のない井戸

先住民族の村であり、人口は多く、所得はとても低いです。このへんぴな地域では、安全な飲料水を確保するのは非常に困難です。小さな川がありますが、ほとんど毎月、水位が低下して水が淀みます。淀んだ水は清潔ではなく、人々は、大雨が降った時にのみ川の水を飲んでいました。以前からある浅井戸はヒ素汚染されていたので、村人はきれいな水を求めて遠くまで水くみに行っていました。今では雨が降るかどうか心配する必要もなく、近くで水が得られるようになりました。

水の心配いらない生活

井戸が完成するまでは、村には安全で十分な水が得られる井戸がなかったため、村人は村の中心にあるお寺のため池まで歩いて、衛生的とは言えない水をくんで来なければなりませんでした。井戸ができて、村の中で衛生的な水を得ることができるようになり、日々水の心配をしなければならない生活から、解放されました。今は毎日安心して水を飲み、身の回りを清潔に保つことができます。野菜や家畜を育てて暮らすこともできるようになりました。



【寄贈者】鎌田重明 様

クラチエ州チュロン郡カンボンダムレイ地区ブラ
マー村 受益者：17世帯67人
井戸の形式：露天式（深さ40m）

【寄贈者】HONG KONG FRIENDS No.14 様

ソルソゴン州マトノック町カリンターン村
受益者：37世帯と近隣住民
井戸の形式：ポンプ式（深さ28m）



塩辛くない井戸を探した

この集落には公共の井戸がなく、自分たちの手で井戸を掘りましたが、人力で掘れる深さなので浅く、水も濁っており、塩辛い水しか得ることができませんでした。この度、井戸を寄贈いただき、集落の中で安全な水を得ることができるようになりました。海に囲まれているため、塩分のない良い水脈を見つけるために2度掘り直し、完成まで長い時間がかかりましたが、完成した井戸の水には海水が混ざらず、水質検査にも合格し、村人皆が安心して飲むことができます。

山の上に見つけた湧き水

集落には水が飲める共用井戸はなく、村人は川から水を得るか、2 km先の簡易水道まで水をくみに行っていました。井戸を寄贈いただけると決まり、専門家に村を訪問してもらったところ、井戸を掘るよりも、山の上の湧き水を貯めるタンクを設置し、村まで簡易水道を引く方法が一番適切との助言をいただきました。水が湧いている土地の所有者は協力を快諾してくれたので、水源を整備し、集落皆が水を使えるように、貯水タンク2つを設置しました。

ソルソゴン州マトノック町マンジュンラッド村
受益者：16世帯105人と近隣住民
井戸の形式：水道パイプライン式



【寄贈者】京都暁星高等学校様

井戸ができた村

【寄贈者】HONG KONG FRIENDS No.10 様

クラチエ州チュロン郡ドムレイブン地区ブラ
オット村 受益者：13世帯44人
井戸の形式：ポンプ式（深さ43m）



ため池の生活から井戸へ

村には自然の川や湖などの水源もなく、村人たちは集落の中に自分たちで穴を掘って、そこに雨季の間に水を貯めて生活用水として使っていました。しかし集落の中でそこにしか水がないため、飲用の他に、炊事や洗濯、水浴びはもちろん、家畜も利用していましたから、衛生的とは言えない水質でした。この度寄贈いただいた井戸の水質は、飲用に適しており、また水量も多いので、いつでも清潔な水が飲めるようになりました。村人たちはとても喜んでいました。

苦労して見つけた水脈

この村はメコン川から離れた場所に位置し、また高地に位置するため、水源を見つけるのがとても難しい村です。そこでJAFSの提携団体KAFSが、村人たちと相談をしながら、現在の場所に井戸の設置を決定しました。しかし井戸掘削を始めても、水源を見つけることがとても難しかったです。近年乾季の気温がとても高かったため水の蒸発量が多く、また雨量も特に少なかったため、通常よりもかなり深い水脈まで掘った結果、ようやく飲料に適する水が見つかりました。

【寄贈者】HONG KONG FRIENDS No.12 様

クラチエ州チュロン郡ドムレイフオン地区クロ
ホ村 受益者：15世帯60人
井戸の形式：露天式（深さ55m）



【寄贈者】HONG KONG FRIENDS No.11 様

クラチエ州チュロン郡ドムレイブン地区バライ
ン村 受益者：小学校教師3人生徒67人と34世
帯176人 井戸の形式：ポンプ式（深さ35m）



清潔な水で安心な学校

村には大きな水源がなく、5 km離れた池まで水くみに行かなければなりませんでした。学校にも水が得られる設備がなかったため、子どもたちは家から飲み水を持参していましたが、その水は池からくんだ水で、お腹を壊すこともよくありました。また、何か作業をした後やトイレの後の手洗いやうがいも、清潔な水を十分な量使うことができませんでした。この度、村の小学校の中に井戸を寄贈いただき、小学校の先生と生徒のほか、近隣からも利用者が来ています。

井戸ができた村

J A F Sチャリティイベントカレンダー

2025年夏



月	日	地域	行事名	時間	実施場所	参加費	内 容
7月	5日(土)	生駒市	アイビー歌声サロン in生駒	10:00～11:30	生駒市松美台自治会館 生駒市松美台45-241	700円	腹式呼吸を目指し、出席者からのリクエスト曲をキーボード生演奏で、皆さんと一緒に歌います。 ●窓口：有山加代子 090-8377-5151
	8日(火)	西区	第425回JAFSそうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	最近、アジア現地へ支援のために訪問したボランティアやスタッフが現地事情や支援内容について報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	8日(火)	西区	ワンコインセミナー トリアスロンコーチ 「歩いて元気になるう会」	13:15～13:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：前田隼矢 歩きは運動の基本。正しい歩き方をすると身体は心地よく感じ、元気になるようにできています。手軽な体操を交えて、正しく心地よい歩き方を身体に染み込ませましょう！ ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	8日(火)	西区	ワンコインセミナー お笑いマジックと漫談 「皆様にもできる手品を」 (プレゼントあり)	14:00～14:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：Mr.マジックリン 落語をベースにしたお笑いマジックを楽しんでいただき、手品をプレゼントしてレクチャーさせていただきます。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	8日(火)	西区	ワンコインセミナー 「スマホ簡単活用法」	14:45～15:25	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：Mr.マジックリン 電話とラインだけのスマホにこんな使い方があったんだ!!「文字入力せずに言葉を言うだけでチューブを覗ける方法など」 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	8日(火)	西区	ワンコインセミナー「川柳」	15:30～16:10	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：江藤 修 川柳は5・7・5の17文字です。あなたの思い出や夢を短冊に書いてみませんか。楽しくサポートさせていただきます。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	8日(火)	西区	ワンコインセミナー「笑いヨガ」	16:15～16:55	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：守田 鯉香(りか)「楽しいから笑うのではなく、笑うから楽しいです」笑いヨガは、難しいポーズをとりません。ヨガの呼吸法で笑うだけです。お身体が不自由な方でもどなたでもできます。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	8日(火)	西区	ワンコインセミナー「空手」	17:00～17:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：高橋 和裕：空手は戦うだけじゃない。身体の使い方に関する知識が詰まっています。今回はその場歩きから正しい歩き方に迫ってみたいと思います。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	12日(土)	西区	第6期JAFSアジア市民大学 第10回フィリピン	17:00～19:00	肥後橋官報ビル8階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般2400円 会員2000円	福岡女子大学国際文理学部准教授の山根隆至氏より、フィリピンの紛争と平和の行方について語っていただきます。特に武力衝突が起こる背景や解決できない要因や和平に向けた取り組み課題などの検討について現地の情勢を交えてお話しいただきます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	13日(日)	西区	最終回：第42回土と水と緑の学校 保護者説明会(大阪)	13:00～14:30	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	無料	昨年に続いて第42回(今回が最終回)土と水と緑の学校を8月7日(木)～11日(月祝)の4泊5日和歌山県新宮市で開催します。対象は小学3年生～中学3年生までの約60名、大阪からの参加費は47,000円(往復のバス代、宿泊・食事・保険代等を含む)。参加希望者及び保護者対象に詳しい説明会を開催しますのでどなたでもお気軽にご参加ください。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
8月	21日(月祝)	新宮市	最終回：第42回土と水と緑の学校 保護者説明会(新宮市)	13:00～14:30	新宮市役所別館(旧職業訓練センター) 和歌山県新宮市春日1-35	無料	今回が最終回の第42回土と水と緑の学校を8月7日(木)～11日(月祝)の4泊5日和歌山県新宮市で開催します。対象は小学3年生～中学3年生までの約60名、新宮からの参加費は32,000円(現地での交通費、宿泊・食事・保険代等を含む)。参加希望者及び保護者対象に詳しい説明会を開催しますのでどなたでもお気軽にご参加ください。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	26日(土)	京都市	京都チャリティミニコンサート ～さわやかな夏のしらべ～	12:00～14:00	バザールカフェ 京都市上京区烏丸今出川上ル 烏丸今出川交差点から北に歩いて、西側一本目の角を左折、左手	2500円 (昼食付)	ヴォーリス建築の素敵なカフェで、京都を中心に関西一円の病院・福祉施設などで演奏活動続けるアンサンブル・アンジェラの皆さんをお招きし、夏をテーマに様々なジャンルの曲や歌を演奏していただきます。みんなで歌えるコーナーもあります。おいしいランチとともに、さわやかな夏のメロディを楽しみましょう。参加費の一部はアジアの子ども支援に充てさせていただきます。 ●窓口：事務局 岡本 06-6444-0587
	7日(木)～11日(月祝)	新宮市	最終回：第42回土と水と緑の学校	7日(木)～11日(月祝)	和歌山県新宮市高田地区及び那智勝浦町宇久井	大阪発着47,000円 新宮現地参加32,000円	今回が最終回の第42回土と水と緑の学校を8月7日(木)～11日(月祝)の4泊5日、和歌山県新宮市で開催します。対象は小学3年生～中学3年生までの約60名、カヌーやハイキング等の体験活動と自然を学ぶ学習活動があり、自然の素晴らしさを学ぶと共に仲間と一緒に生活することで思いやりの心を育てます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	14日(木)～23日(土)	インド	スタディツアー「見たことのない世界に出会う旅ーインドの社会課題と向き合う10日間」 ＜マハラシュトラ州ナグプール・ガッチョリ、カルナータカ州ビジャプール＞	左記日付は現地ムンバイ集合・解散日	チャイルドアカデミー、バダトラ小学校、コスモクタン学園、村の家庭、井戸、診療所、ガオコル(月経隔離小屋)、養鶏プロジェクト、こみ山とスラム、植林・クリーン活動、寺院	186,000円(航空運賃や海外旅行保険料など別途)	◇個人では行かない田舎を訪れ、地元の人の暮らしや社会課題を体感 ◇経済発展から取り残される地域の実情を、自分の目で見て学び未来を考える ◇人々がより良く生きられるよう取り組む現地提携団体の活動現場を訪問 ◇JAFSが支援する学校で子どもと交流 ◇寺院など観光 ●申込〆切：7月9日 ●詳細問合せ先：事務局 川本 06-6444-0587
	23日(土)	西区	第5期JAFSアジア市民大学 第11回 イスラエルの文化と宗教	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般2400円 会員2000円	イスラエルに留学し現在、アメリカビューラーハイツ大学哲学博士課程在学中の草山かおり氏より最新のイスラエル情勢について特に宗教と文化の面からお話しいただきます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
9月	9日(火)	西区	第426回JAFSそうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	最近、アジア現地へ支援のために訪問したボランティアやスタッフが現地事情や支援内容について報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	10日(水)	生駒市	アイビー歌声サロン in生駒	12:30～14:00	生駒市たけまるホール 多目的室 近鉄奈良線、近鉄けいはんな線生駒駅よりすぐ。	700円	腹式呼吸を目指し、出席者からのリクエスト曲をキーボード生演奏で、皆さんと一緒に歌います。 ●窓口：有山加代子 090-8377-5151
	13日(土)	西区	第6期JAFSアジア市民大学 第12回ウクライナの現状とこれから	17:00～19:00	肥後橋官報ビル8階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般2400円 会員2000円	日本ウクライナ文化交流協会の小野元裕会長より、未だ解決の糸口が見えないウクライナ・ロシア戦争の最新の現地情勢についてご報告いただきます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834

	13日(土)	西区	第6期JAFSアジア市民大学 全12回終了お疲れ様会	17:00～19:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	1000円	第6期アジア市民大学終了に際し、ウクライナについて講義いただいた小野講師はじめ、今期で引退される費学長や第7期ご担当の桂次期学長を囲んでの交流会を行います。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
10月	10日(金)～13日(月祝)	タイ	第32回アジア国際ネットワーク セミナー	10日(金)～13日(月・祝)	バンコククリスチャンセンター	未定	昨年スリランカで開催のアジア国際ネットワークセミナーを今年はAFSタイがホストとなり開催します。セミナーは3日間。各チャプターからの活動報告はじめこれからのAFSの目指すべき方向や具体的な方策について話し合います。 ●窓口：事務局柿島 090-1021-6834
	11日(土)	関東	JAFS関東 目黒～白金台チャリ ティーウォークとそうすいの会	ウォーク9:00～12:00 そうすいの会12:00～14:00	チャリティーウォーク 目黒駅～白金台～三田(約5km) 国立科学博物館付属自然教育園 東京都庭園美術館(旧朝香宮邸) 港区郷土歴史館(旧公衆衛生院) に立ち寄ります。 ゴール後は昼食としてそうすいの会を開催します。	チャリティーウォーク1000円 そうすいの会1000円	9時 JR目黒駅東口集合 9時30分 国立科学博物館付属自然教育園散策(入園料320円) 10時30分 東京都庭園美術館(旧朝香宮邸)庭園散策(入園料200円) 11時30分 港区郷土歴史館(旧公衆衛生院)のゴシック建築を見学 12時 三田にゴール後、そうすいの会 ●窓口 JAFS関東活動委員会 川崎 080-2041-0505
	24日(金)	大阪市北区	JAFSチャリティコンサート 瀬田敦子演奏50周年記念ピアノ リサイタル 阪神淡路大震災 後の30年に想いを寄せて	開場17:00 開演18:00～20:00	あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール 大阪市北区西天満4-15-10(梅田新道東南角) あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー内	前売3000円 当日4000円 (ザ・フェニックスホール友の会会員 前売2,400円 当日3,200円)	瀬田敦子さんが「アジアの子供たちの未来のために」と、各地で開催してきたチャリティコンサートは20回を超え、学校に通えない子どもたちへの支援を続けている。瀬田さんの演奏活動50周年を記念して贈る、タイ・ベトナム・日本の若手演奏家とのジョイントコンサート 第一部<アジアの若手による演奏> ギター：チンナワット・テムクムクン、ヴァイオリン：カオ・ホン・リン、ピアノ：小倉裕貴、ピアノデュオ：中尾 恵・松尾美保 ●窓口：事務局柿島 06-6444-0587
	26日(日)	生駒市	チャリティ・ライブ&マルシェ in生駒	11:30～15:30	生駒コミュニティセンターセイセイビル1階 セイセイホール 近鉄奈良線・けいはんな線生駒駅南口よりすぐ	前売2,000円(500円金券付き) 当日2,500円 留學生・障がい者・小学生1000円(500円の金券付き)	アジアの多彩な歌・踊りを楽しみながら、美味しい料理をいただき、バザールも楽しんでアジアの人たちと楽しく交流しましょう。 ●窓口：鳥居 090-5663-6123
11月	26日(日)	関東	瀬田敦子演奏生活50周年記念 チャリティコンサート 東京公演	開場1830 開演19:00～21:00	ミューザ川崎シンフォニーホール 市民交流室(建物4F) JR川崎駅 中央西口から徒歩3分 京急川崎駅 中央口から徒歩8分 神奈川県川崎市幸区大宮町1310	前売3000円 当日4000円	瀬田敦子さんが「アジアの子供たちの未来のために」と、各地で開催してきたチャリティコンサートは20回を超え、学校に通えない子どもたちへの支援を続けている。瀬田さんの演奏活動50周年を記念して贈る、タイ・ベトナム・日本の若手演奏家とのジョイントコンサート 第一部<アジアの才能ー音楽の新たな展開> ギター：チンナワット・テムクムクン、ヴァイオリン：カオ・ホン・リン、ピアノ：小倉裕貴、ピアノデュオ：中尾 恵・松尾美保 ●窓口 JAFS関東活動委員会 川崎 080-2041-0505
	2日(日)	高槻市	JAFS高槻 秋のクラシック Caféカルテット弦楽四重奏の調べ	14:00～16:00	クロスバール高槻(高槻市立総合市民交流センター) 8階イベントホール JR高槻駅南口より徒歩2分	参加費 会員2000円 未会員2500円	深まる秋に 秋色の調べ Caféカルテット による四重奏を聴きながら心豊かな時間を共に過ごしませんか。費用の一部はインドコスモニクタン学園の支援金に充てさせていただきます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	22日(土)	天王寺区	第10回アジア・チャリティ・ フェスティバル(仮名称)	11:00～17:00	大阪国際交流センター 2階大会議室さくら(大阪メトロ谷町線・千日前線 谷町九丁目5番出口より600m、近鉄 大阪上本町14番出口より400m)	未定	様々な国々出身の民族が一堂に会し、お互いの文化を体験し共に理解し合う多文化交流の広場として開催します。また各国自慢の食も楽しみの秋の楽しい一日を共に過ごします。 ＊現在、実行委員、ボランティア、出演者、出店者を募集中ですので、お気軽にお問い合わせください。 ●窓口：事務局 柿島・藤澤 06-6444-0587
12月	23日(日・祝)	京都市	バザールカフェ フィエスタ	13:00～16:00	京都市上京区岡松町258 tel:075-4111-2379 京都駅・阪急烏丸から地下鉄烏丸線で「今出川」下車徒歩5分	無料	毎年恒例のバザールフィエスタ、今年も開催！ アジア・中東各国料理、雑貨、音楽…国籍も年齢も性別も越えて、みんなでつくるフィエスタです。京都地区会が出演します。当日ボランティア大募集！
	13日(土)	西区	第6期JAFSアジア市民大学 費学長最終講義	14:00～16:30	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	無料	アジア市民大学費清隆学長が、この6年間の当大学の活動を振り返り、依然として紛争が絶えない世界の現実や経済的格差の拡大、地球規模の環境破壊などの多くの課題を踏まえ、これからの世界の行く末について論じ話し合います。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	13日(土)	西区	第6期JAFSアジア市民大学 費学長感謝の集い	17:00～19:00	北京料理徐園 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	5000円	アジア市民大学費清隆学長と共に6年間の学びを振り返り、受講生の皆様と共に懇親・交流のひとときを過ごします。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834

♡「もったいない」のきもちを社会貢献へ♡

JAFSでは以下のものを集めています。ぜひ、ご協力をよろしくお願いいたします。

〇書き損じハガキ、切手(未使用・記念切手可)、外貨コイン：事務局の通信や、JAFSの活動に使わせていただきます。

〇服、アクセサリ、カバン等：買ったけど数回しか使っていない。でも捨てられないものありませんか。

お問い合わせ 06-6444-0587 JAFS事務局

断捨離 × 国際協力

もったいないを力に！

寄付いただいた物品は、チャリティーショップ KANAU で販売。
その売上がアジア協会の支援活動に役立てられます。

洋服(春・夏服) 靴 本 /CD/DVD 服飾品 アクセサリー
※冬物は9月以降にお願いします

問合せ・受付先 ▼ 火曜定休 10:00～18:00 JR 寺田町駅より徒歩 10 分

KANAU 夢かなうチャリティーショップ

〒544-0025 大阪市生野区生野東 2-2-15
☎ 090-4161-0236 (青木)

詳細▶

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。（敬称略・50音順）

2025年3月1日～5月31日

●社員会員
中本リキ／和田武志

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。（敬称略・50音順）

2025年3月1日～5月31日

なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

●社員会費

秋山賀子／明見勝好／浅野弘／安達英行／熱田親憲／熱田典子／天野紀／池田邦子／池本修／石田雅昭／石原基義／伊東祥多／上田高久／上野孝一／大石みどり／大野嘉宏／大原映子／大本和子／岡本厚／岡本佳子／小澤勇／小野元裕／小山田宗弘／柿島裕／笠谷正博／神野哲／川合千代子／川崎壽／川端勝／北田嘉信／北野光三／北山典彦／金昌則／草加節男／桑村壽子／古賀旭／古賀範久／小林久仁子／斎藤公代／櫻井紘哉／佐々木実／佐藤道代／佐藤理香／更家充／下山浩一／平興隆／高垣靖／高田晃宏／田中壽美子／田中政直／谷岡康男／谷和弘満／玉城博和／辻知久／辻川楠美／土屋菊男／出口貴之／藤岡孝子／藤岡剛／富田和政／中井淳夫／中内一揚／中須賀敬子／中村日遊／中本リキ／西田貞之／野池徹／野木義弘／野口明英／橋口高明／橋本隆／東幹男／平瀬勢文／福岡名津子／福川肅／藤原正昭／細谷詩子／法花敏郎／本間一将／増田隆史／松本静枝／丸尾裕之／宮野谷篤／宮本照佳／三渡眞由美／村上和範／村上公彦／毛利

吉男／森脇寛／安田信人／八束浩一／柳井一朗／山口克隆／山崎道治／山崎桃／山下泰之／山田和広／山田英男／山田穂積／横井怜子／横山浩平／米田徳子／若元裕美／若元良嗣／和田武志／渡部高明／渡邊瑠璃子

●維持会費

秋山タカ子／浅尾みちる／浅野照子／安達淳子／熱田昭子／熱田貴子／天野さやか／天野日出男／雨森清忠／幾谷眞規子／石井琢也／石原京子／泉原眞由美／市来賜代／市来千代子／伊津野修／伊藤エリサ／伊藤ヒサ／伊藤勝／伊藤亮三／因幡明洋／井上順子／猪口薫／今井利子／今井康郎／今堀京子／岩城良子／植田直弘／上田律子／梅田祥仁／浦野健二／枝川豊／大島一晃／大谷伊津枝／大槻昌寛／大成孝子／大橋一雄／大平英明・さゆり・こはる・ほのか／大脇とし子／岡野さぬ子／岡本修／沖早知子／置田善三／荻野晋也／小椋加代子／越智翼／岳山修／片山和子／片山直也／金子澄子／釜下金郎／上岡忠人／加茂清次／川上徹／川上知輝／川上礼子／菊扇弘子／菊池哲也

●ジュニア会費
徳永健

●マンスリーサポーター
大河原貴／Koshia Jui／佐藤文昭／館野晶光／辻本健二／橋本亜紀／伴香保理／松久敏彦／宮田英一／森美鶴

●一般寄付

明見睦子／上野孝一／大河原貴／大久保勝則・洋子／甲斐薫／カトリック名寄教会えんれい会／（特活）KANU／岸本和彦／Koshia Jui／酒井聖／櫻井紘哉／佐藤文昭／杉崎仁志／（学）山越学園認定こども園すみれ幼稚園／（株）セーノウキカク／ソフトバンクつながる募金／館野晶光／玉城博和／辻本健二／寺田真理子／根津千枝子／橋本亜紀／伴香保理／藤原正昭／法花敏郎／眞砂哲志／松久敏彦／宮田英一／森美鶴／安永拓史／柳井一朗／やまだ脳神経外科クリニック山田恵美／大和キリスト教会支援委員会／山本公認会計士事務所山本宏昭

●井戸指定
角英樹／杉本樹里

●井戸建設積立
（一財）エオサンタ／仁愛会／JAF Sぞうすいの会

●井戸建設指定
○カンボジア
（株）国元商会／小野雅弘／花巻北ロータリークラブ／「ステハジ」プロジェクト／札幌リバイライオンズクラブ

○フィリピン
京セラ労働組合

○ネパール
東代清隆

●賛助会員
谷口庸子／中川裕美子

○バン格拉デシュ
（株）国元商会

●水支援
川本順子

●学校建設支援寄付
小林明光／福永有花／横田美智子

●アジア・ネットワーク奨学会費
上野孝一／岡本圭司／古賀旭

●アジア・フレンドシップ夢基金
JAFS歩く会／JAFS生駒地区会／JAFSワンコインセミナー

●アジア・子ども支援寄付
宇治教会

●アジア植林支援寄付
（株）日本入試センター

●インド・HIV子どもと家族支援
JAFSいのちの会枚方

●コスモニケタン指定寄付
コスモニケタン支援会／谷口庸子／中川裕美子

●スリランカ・サルボダヤ支援会費
岡本佳子

●スリランカ指定寄付
岡本朋子／JAFS京都地区会

●ネパール指定寄付
JAFS北河内緑とふれあう会

●フィリピン指定寄付
JAFS京都地区会

●ネパール・ピトゥリ基金・支援
熱田典子／大谷英一／大谷臣子／小川幸子／倉光和之／小松朱美／島崎亨枝

／北口正敏／北田雅人／吉相幸枝／木野由弘／木原みき／木村泰彦／木村依江／清岡恵美子／熊本千恵子／小出裕司／甲田一幸／小倉正和／小島俊之／古住満寿子／小谷のり子／小西尚子／小林眞澄／小松一子／小森茂之／雑賀明美／齊藤透／斉藤渡／嵯峨山節子／佐藤潤子／佐藤眞子／佐野眞佐子／澤田安子／寛まり子／芝崎末廣／澁谷香織／下野博／正法地浩／永永雅典／須賀浩／菅原直樹／杉江久男／杉原貴／瀬川眞平／関口淳／仙野和子／曾和明／平善行／高岸弥生／高畑政登／高山結衣／田口哲朗／竹田陽子／武生伸子／立石小夜子／田中和枝／田中和子／谷口昌嘉／谷丸八郎／谷山祐子／種村政宏／玉置和子／田村章子／辻賢二／辻知久／辻正浩／津田洋子／坪内廣次／坪田由紀子／土居正明／遠田智代／徳永正和／富松孝司／豊田祐輔／寅田和代／鳥居洋一／内藤恵子／長江佐和／中江優子／中岡末子／中嶋政義／中島就子／中島裕子／中島綾／中陳和悦／中筋光子／中谷華菜／中西彰夫／中西伸子／長野清文／中野為夫・桂子／中橋政美／中南有加里／中村真司／中村暢秀／西優子／西尾恵美子／西川龍夫／西田恭子／西野恵子／西林昌樹／西山あかり／乗田昌司／橋田政子／橋本喜代子／橋本喜代美／橋本元気／長谷川雅子／秦道代／林千夏／原田和幸／日生下卓／日笠修宏／久光定雄／日野恵美子／日野眞澄／平見美智子／廣敦子／廣田恵美／深井泰樹／福井えり／福島朋子／福本義寛／房本晃／藤井順子／藤井りか／藤田百合子／藤本和富／藤原龍雄／船戸尚子／古田万紀子／堀正巳／堀口賢司／本庄紀子／本多操／前澤良子／真下浩一／榎田美／松井寿之／松村祐介／松本典子／マツララジャンマン／的場義恵／三木裕則／三國谷勝寛／溝尾敬子／溝渕むつ躬／光畑麻美／宮田幹／宮野慧子／虫明桂子／武藤由美子／宗石和久／村本康治

●賛助会費

青木洋／浅井聡子／荒川奈秀子／荒木迪夫／池嶋伸晃／池住美樹／池田倫子／石尾美佐子／石田尚美／泉谷博幸／一色由子／伊藤朝信／稲垣章子／井上修二／晶子／井上康／岩切康宏／岩崎裕保／岩下将人／岩間美佐子／上野泰子／上畑育美／鵜飼卓／囃地道俊／漆原嘉孝／大岩典代／大谷まり子／大西恵子／大橋晃子／大森文子／大山利子／沖田弘子／沖野雅一／奥野憲一／柿島頼紀／籠谷啓史／鍛冶良祐／加芝ナミ子／梶原英一／粕谷香代子／加藤繁生／加藤紀子／川端美智子／上林愛子／岸本啓子／北川久躬子／北村英夫／北村光弘／狐塚真美子／絹田悦子／木原民世／木村和夫／木村征代／近藤利則／栗山聡子／桑原由紀子／小泉和／小林理恵／斉藤理美／真田朱美／島田和幸／清水直子／清水利香／シュレスタナニマヤ／庄司野宇三郎／新谷百代／関一也／相馬隆人／平眞知子／高橋文子／高宮寿子／高山純一／田口吉三／竹井智子／竹中晋／武森友美／田中恭子／谷総安雄／谷口惺／谷口庸子／辻貴文／辻知久／辻益廣／津田宏久／都筑信美／壺井利一／外村茂一／富田修／外山和美／内藤健一／内藤肇／内藤雅貴／中川裕美子／中島慎介／永谷恵子／中谷太一／中野鉄馬／長浜真美／中村操／中村弓絵／成山邦子／西浦暢子／西林文／根本クミ子／野上麻理／野島哲也／野村浩之／箱崎健明／橋本靖夫／畠山常夫／畠中美代子／花房逸子／花光智香子／羽田孝彦／濱口み

●里親会費

アジア井戸ばたサロン／石坂祐子／石原基義／伊藤誠／小笠原和久／岡田麻理／岡部美和／奥野憲一／川岸幸恵／川端美智子／絹田悦子／木下敏子／木村依江／児下美恵／今野裕章／斉藤渡／佐藤潤子／佐藤正明・潤子／下村連実／川崎隆二／平眞知子／田中和子／谷総安雄／田村章子／徳永昌彦／中島綾／中谷誠／中村弓絵／西澤純／日本基督教団西宮教会婦人会／西山美菜子・千晶・敦記／畠山房子／濱口みどり／日生下卓／ビッグマリオン学院奈良教室代表中沢麻子／平川哲也／洋野町国際交流協会会長萬徳福治／福岡名津子／藤原勝徳／前田恵美子／前田泰子／三里健一／水野結乃美／武藤英利矢／森利明／山岡輝清／山脇哲／渡部高明／渡部司

●集めるキャンペーン・物品寄贈
乾聖陽／武市和己／三木信子／森田雄大

JAFS公式LINE～友だち追加お願いします！

JAFS公式LINEを始めています。
イベント案内、アジアの活動状況、
国内活動の様子など、タイムリーに情報をお届けしていきます。右のQRコードから友だち追加してください！



2024年の活動報告

みなさまのお力で
達成できました

より良いアジアの暮らしのために 2025年目指す活動

2024年度は、45年間事務局運営を担った創設者の引退を受け、新たな組織運営を模索し事業の選択・集中を検討し始めた1年でした。アジアのネットワークでは経済力を増してきた国がリーダー力を発揮し始めています。

2025年度は国内外の若手人材も共に、次世代の市民活動NGOとしてこれまで以上に支援者の皆さまの協力を得ながら、「貧困なき社会の創造」に向け、アジア各地域に明るい未来予想図が描ける支援を目指します。

水事業

井戸・パイプライン計65基

2024年度はアジア6カ国（インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の農村48カ所に、飲料水の井戸およびパイプライン計65基を完成することができました。遠方への水くみを強いられていた人々の生活を改善でき、感染症予防のための衛生環境改善や、子どもの就学促進にもつながりました。これによりアジア各地に贈った井戸は、累計2366基となりました。

◀インド・マハラシュトラ州の少数民族の村に井戸が完成「学校に水を持って行ける」

農村所得向上、障がい者支援

貧困対策事業

2024年度の小規模産業育成・職業訓練事業は次のようでした。スリランカ・バンドゥワラ県の女性40名に酪農・農業・縫製を訓練し、子どもの栄養と教育を改善しました。ネパールではシンドウパルチョーク郡インドラワティ村の継続的な農業振興に向け、村の若者1名に農業専門高等学校への奨学金を支援しました。ま



ミシンと縫製訓練の支援を受けて商品づくりに励む女性（スリランカ）

た収入向上のための養豚・山羊事業や、家畜を活用する混植農業モデル事業を行いました。フィリピン・ソルソゴン州では農漁村の所得向上を目指し、漁場づくりのために植林したマングローブ林の整備や育苗を進めました。また農村地域の生活困窮者の収入向上のために、有機肥料で土壌を改良し、収穫量が増えました。

フィリピン・アンティケ州パンダン町の障がい者が生活物資割引制度を受けられる手続きを支援しました。また障がい児童の卒業後の自立を目指すし、再生プラスチック煉瓦の製造工場運営を支援しました。

医療・保健を支援

インド・マハラシュトラ州ムスカ村の病院に対し、ニーズ拡大に伴い病棟1棟の建設を実施中。2025年度の完成を目

指している。

ネパール・シンドウパルチョーク郡インドラワティ村の女性に、健康維持

植林・清掃・環境教育で地球を守る

環境事業

アジア5カ国において、地域の森林減少の歯止めや水源涵養、農業環境整備などのために6355本の植林をしました。農村の持続可能な生計につながりました。

ネパール・シンドウパルチョーク郡インドラワティ村で、緑化および地域産業づくりのためにコーヒーを植樹。日陰樹750本、コーヒー苗1700本の植樹、コーヒー苗1万床の育苗、および日本人専門家による研修をしました（「緑の募金」公募事業）。

バングラデシュのポリシャル県・ガジプール県・ネトロコナ県の学校計3校700名が、学校周辺の緑化と環境教育のため、マンゴー1305本を植林しました（連合・愛のカンパ中央助成事業）。

フィリピン・アンティケ州パンダン町で、水源地の森林保全のための苗木づくりと2000本の植林をしました。

スリランカでは、マターレー県とモ

のために生理用布ナプキンの活用を勧め、地元で布ナプキンを製作して20名に普及しました。

ナガール県の計12地区にて果樹など600本を植林し、青少年が育成に携わりました。

グリーンスカウト運動

1986年に発足したグリーンスカウト運動（環境保全市民運動）は、4カ国の現地提携団体が、様々な地球環境保全活動をしました。

ネパール・シンドウパルチョーク郡インドラワティ村では、環境ジュニアリーダーを育成し、7カ所の防災センターに焼却炉兼ごみ箱を設置しました。また2カ村3校にて、環境美化活動、植林、地域清掃を学生主導で行いました。

フィリピンでは、パナイ島、パンダシ島、シバロン市で、環境保全のための青少年サマーカーンプを開催し、子どもたちの意識啓発しました。ソルソゴン州マトノック町では、地域環境保のためのごみ分別セミナーを51回開催し628名が参加しました。合計624名が参加したクリーンアップ活動を実施しました。また学校や幼稚園

で環境活動の習慣化を促進しました（TOTO水環境基金助成）。スリランカでは、村や学校を拠点にして環境保全活動を進め、各村でユースリーダーを育成して活動の輪を広げました。



日本の学生と現地の人と一緒にビーチクリーン（インドネシア・バリ島）

5カ国の里子294人に教育支援

子ども事業

アジア里親の会（教育里親制度）により、アジア5カ国（インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の生徒294名を通して教育資金を支援しました。現地の教育行政制度が整いつつありますが、コロナの影響で困窮度を深めた貧困層の子どもたちが高校教育まで受け続けられるよう制服・文具の購入や、教育環境の維持・運営の支援をしました。

学校の運営・設備支援

ネパール・ナワルプル郡の校舎1棟の建設が終了し校舎が完成した。バングラデシュの5校の老朽化トイレ再建支援は、現地に洪水が発生し実施できませんでした。

HIV/AIDS支援

インド・タミルナードゥ州ディンディガル県とナマカル県で、HIV/AIDSに感染した子どもと家族2世帯

の生活と教育を支援しました。これを以て支援を終了しました。

スラムの子どもたち

インド・マハラシュトラ州ナグプールのスラムの子どもたち20名に、学習補講、および就学を継続するための通学鞆・制服・水筒・衛生用品などの支援を行いました。

フィリピン・マニラ市内のストリートやスラム、また郊外移住地に暮らす子どもたち96名への教育支援とともに、生活習慣・衛生環境改善などの啓発プログラムを実施しました。

ネパールで栄養改善

ネパール・ナワルプル郡ピトゥリ村スリーサンティ小学校生徒155名に、卵と牛乳の給食を支援し、子どもたちの栄養状況を改善しました。

同村およびシンドウバルチョーク郡インドラワティ村10区にて、キッチンカーを活用した栄養指導プログラムを現地トリブヴァン大学と共同で実施しました。また食事改善員育成の講習を開始しました（味の素ファンデーション助成）。

日本での栄養士育成のネパール人対象者2名は栄養専門学校に進学し1年目の学習を終了しました。もう1名は日本の大学院博士課程（栄養学）2年目を終えました。

栄養改善指導で栄養価の高い料理を試食する子ども（ネパール）



ワークキャンプとプロジェクト視察

関係団体や学校の依頼によるワークキャンプを、カンボジアとネパールで計6回実施しました。

プロジェクト視察はネパール13回、スリランカ2回、バングラデシュ1回、フィリピン1回、タイ1回、カンボジア1回の6カ国19回実施しました。

国際交流事業

第30回アジア国際ネットワークセミナーを10月にスリランカで開催し、12カ国77名が参加しました。メインテーマは「気候変動と貧困層の生活への影響」。サブテーマは「AFSネットワークの今後のあり方」。併せてユース世代育成プログラムを実施しました。

学生がアジアで学ぶ

アジア草の根の自立・連帯基金である「アジア・フレンドシップ夢基金」は募金のための世話人会を設けて募金に協力しました。

JAFS企画として、インドネシアのジャワ島とバリ島へのスタディツアーを2月に実施し、大学生を中心に9名が参加しました。

研修と奨学金支援

AFSネットワークを将来担うアジア各国提携団体の職員研修のための奨学金支援は、フィリピンのアジア社会科学学院の地域開発コースを受講するインドの学生1名に奨学金を支援しました。

海外ボランティア研修制度では、第30回アジア国際ネットワークセミナーに2名の研修生を派遣しました。

ネットワーク強化

アジア国際ネットワーク事務局に新しいスタッフを配置し、それに伴ってアジアにおけるネットワーク強化を推進しました。

次世代のAFSネットワークへ



アジア国際ネットワークセミナーのオープニング全体会議（スリランカ）

震災被災地支援と防災力強化

罹災者支援事業

ネパール・シンドウバルチョーク郡インドラワティ村において、2015年発生の地震被災地に設置した揚水システムの運営を支援しました。7月と9月の大洪水で取水設備が流され、揚水システムが使えなくなったため、修繕・再建の準備を進めました。

同村における防災力強化事業（日本NGO連携無償資金協力）2年次事業として、情報共有システム運用の知識習得と実践、災害リスク軽減のハード対策を目標としました。公共放送FMラジオ局の運営管理技術講習、土砂災害リスク軽減・斜面崩壊対策工事、自治体と学校での防災講習、防災備蓄倉庫7棟の建設をしました。講習会は計7回、計461人に実施しました。

ネパール西部で昨年発生したジャカルコット地震被災者に対しては、避難袋を支援しました。

ウクライナ・スームイ州トロスタネツカ市立病院の理学療法・作業療法士の技能向上事業を予定していたが、病院周辺への攻撃が重なり、来年度に延期となりました。また国内避難民の方が日本で安心して暮らせるように日本料理教室の講師を派遣しました。

2024年1月に発生した能登半島地震と洪水の被災地（珠洲市・輪島市・穴水町）を7回訪問し、炊き出しをしました。映画鑑賞会やピアノコンサートも行い、コミュニティ活性化にも協力しました。避難所に冷蔵庫など家電製品も支援しました。

バングラデシュで8月下旬に起こった大規模洪水の被災地のうち、特に少数民族や宗教的マイノリティの人々が多く住み、支援が十分行き届かず栄養失調状態だった地域の8000世帯に対し、食料と衛生品を支援しました。

フィリピンを11月に襲った大型台風マンイーにより被災したカタンドアネス州パロンバネス島の住民361世帯に対して食料品と野菜の種支援を2回実施。また大型台風ビエンカに被災したアンティーケ州パンダン町では、食事や支援物資の提供、学校・家屋・森林の修復を支援しました。

東日本大震災被災地の宮城県南三陸町にある味噌工房に対し、運営支援を継続しました。

災害発生に向けた備えのため、緊急支援が必要な際に迅速な初動対応ができる資金「緊急支援対応基金」のために緊急支援募金の一定額を充てることとし、人材バンクも検討しました。

国内での普及啓発事業

アジア理解促進とチャリティ活動

多くの市民が参加できる市民活動を目指し、地区会やプロジェクト支援会を通じて方策を検討し活動しました。

また気軽に参加できるイベントやセミナーなどがボランティア活動体験への入口となり、活動に対する理解者・支援者が増えることを目指しました。

住道駅前（大阪府大東市）のJAFSチャリティバザールは2024年度から中止しました。9回目となったアジア・チャリティフェスティバルは、公益財団法人大阪国際交流センターに192名が集まりました。参加者の18%が外国人で、16のステージ、19の出店がありました。多文化共生の観点から関西のアジア系市民との交流を深めることができました。

地区活動やプロジェクト支援会でも各々の支援趣旨のもと、チャリティイベントやコンサートを実施しました。

国際理解教育講座として、高校、大学、専門学校や団体のべ8カ所の計380名に対して講義しました。

JAFSぞうすいの会や地区活動の場にて、アジアでの支援プロジェクトを報告し、支援活動への理解やアジア社会の現状理解を促進しました。



ぞうすいの会で在日ネパール人のお話

ストを開催し、12名の留学生と4名の社会人が出場して4名を表彰。47名が聴講しました。

SDGsの観点から「サステナブルウォーターアワード」を設け、3年間継続的に井戸支援に協力くださった1団体に感謝状を贈呈しました。
大阪市西区の小学校で、外国にルーツがあり日本語指導が必要な児童計9名に、学校生活や授業になじめるよう**日本語サポート活動**を行いました。

第4回「水」写真コンテストでは、国内外から92点の応募があり、上位20作品を阪急うめだ本店に展示。投票審査の結果6作品が入賞。水の大切さをふり返ってもらう一助にしました。

法人向けには日本銀行大阪支店長の講話を実施し24名が参加しました。

活動状況や海外情報を広報

会報「アジアネット」を年4回発行し、活動状況報告や海外情報などを広報しました。支援者のほか、全国の国



毎月川清掃するグリーンスカウト吹田

より良いアジアを目指して 2025年度活動

アジアの状況や日本の役割が変化しており、JAFSの組織運営も創設者引退を受け見直しつつある中、50周年に向け、事業活動の方向性を明確にして中期ビジョンを再策定します。

今年度は「貧困なき社会の創造」のため、取り残されている地域、特に後発開発途上国において、**水・子ども・貧困対策・環境**各分野の事業を通じて、持続可能な地域づくりを目指します。
アジアの発展により水インフラは整備されつつありますが、依然安全な**水**を得られない人々に、水や衛生の確保に始まる自立への道筋を作ります。

子どもに関しては、貧困層の子どもが人生設計できることを目標に、高等学校卒業者の増加、特に女子の増加を目指して、里親サポーター拡大をはかります。生計向上と栄養改善によって子どもの健全育成を推進します。

貧困対策については、地域で生計を立て将来にわたり暮らすために必要な技能や知識を人々が得ることににより、地域が活性化するように支援します。

環境に関しては、アジア各国で課題となっているゴミ問題、森林減少に対し、環境教育や植林活動を通じて積極的活動人口を増やすとともに、地球規模の環境保全活動を推進します。

以上の活動を通じ、アジア各地域に

際関連施設にも送付しました。

ホームページや、フェイスブックやインスタグラムなどの**SNS**、YouTubeでは、不特定多数に向け、会報発行より短期スパンでタイムリーに情報を発信。特にイベント予告やニュース、寄付募集など、発信に迅速性を要する記事を随時掲載しました。

関係団体との連携協力

関西のNGO活動を推進し市民活動の社会意義を広げる活動に協力しています。関西NGO協議会の副代表、国際協力NGOセンターの理事、関西国際交流団体協議会の監事を務めるほか、関西最大の国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」の実行委員として協力しました。

関連市民活動として、関西ナショナル・トラスト協会が活動しました。

「土水」や環境保全活動

第41回「土と水と緑の学校」を8月に和歌山県新宮市で開催し、小中学生の参加者45名が、集団生活をしながら自然の大切さを体験しました。

本会が提唱した**国際グリーンスカウト活動**として国内各地域でも活動しています。吹田部会は、毎月1回の例会と川清掃活動を実施し72キのごみを集めました。日本とアジア諸国が共にごみ問題に取り組む**AFSブルーオーシャンレンジャー**活動では、11月に日

地域産業が生まれ、将来にわたり自立して暮らせることをゴールとして、次のような道筋を促し支援します。

●インド

マハラシュトラ州の少数民族やスラム街で暮らす人々が、干ばつ時でも安全な水を得られ、教育の機会を得ることを支援し、貧困脱出を目指します。

●カンボジア

水供給から取り残されている地域を支援し、タケオ州では水支援活動に続く第2段階の地域活性化活動へ進む準備を始めます。

●スリランカ

クルネーガラ県の、乾季に安全な水を得ることが困難な地域で、水供給支援および衛生活動により地域活動を活性化する道筋を作ります。

●ネパール

シンドバルチョーク郡インドラワティ村が出稼ぎに出なくてよい地域となるよう、農業による地域活性化を目指し、水環境を整え、環境活動やコーヒー栽培を支援します。また栄養指導者を育成し農村の栄養状態を改善するとともに、人材育成の拠点を作ります。

●バングラデシュ

貧困農村で女子の低年齢結婚を減らすため、女子の就学増加を図ります。少数民族地域の貧困脱出を目指し、地

本・フィリピン・インドネシア3カ国6地域で同日に海辺などのクリーン活動を行い、オンライン交流もしました。

各地の会員活動

JAFSの活動がより多くの人に支援されるためには地区活動が必要であり、地区世話人を中心に各地区で次のようなイベントが開催されました。

◆アジアンホームパーティ／高槻地区 ◆緑とふれあう会／第2エリア ◆チャリティサロン／枚方地区 ◆ふれあいフェスタ出展／寝屋川地区 ◆大阪おもしろウォーク／なにわ西 ◆ノアノアフエスタ／なにわ南 ◆ボランティアアフエスタ出展／河内長野・大阪狭山地区 ◆カラフルキッズ／南河内・松原地区 ◆古着バザー・寺内町雛めぐり／富田林地区 ◆学習会・チャリティコンサート／第5エリア ◆国際交流デー出展／西宮地区 ◆フレンドシップデ使出展／三田地区 ◆つなGO！アジア／奈良地区 ◆らまつり出展／生駒地区 ◆佐藤手芸教室バザー／第8エリア ◆アイビー歌声サロン／岡山県日生地区 ◆古切手・外国コイン収集／広島県地区 ◆海ごみ拾い・能登半島ボランティア・チャリティコンサート／JAFS関東、など。

プロジェクト支援グループ

16グループが、様々なチャリティ活

域の担い手づくりのため、子どもの中学・高校進学率を上げます。昨年の洪水被災地では、復興のため安全な水の供給により衛生状態を改善します。

●フィリピン

スラムや強制移住地で暮らす人々の安定した暮らしのために、子どもの就学率向上により地域の担い手を育成します。またソルソゴン州で環境改善活動により持続可能な地域づくりに向けた意識向上を図ります。

●インドネシア

海岸や山村で散乱プラごみによる環境悪化を食い止めるため、回収活動と環境教育を行い、また自然を回復することで持続可能な地域をつくります。

ネットワーク活動と国際交流

アジア18カ国とのAFSネットワークについて、アジアの発展に伴いパートナーシップ関係を見直します。強固な関係づくりとアジア共通の社会課題解決に向け、共同活動推進の一つとして、当会創立記念日を「国際グリーンスカウトデー」とし、地球やアジアに不可欠な環境保全のため活動します。パートナーシップ継続は次世代育成がカギであり、国内外のユースリーダー育成を重点化します。国際社会で活躍する国内ユース人材を育成します。

アジア国際ネットワークセミナーは10月にタイで開催します。

アジア各地の課題や活動を学び、現

動による海外支援事業の応援を、以下のように展開しました。

◆贈水を雑炊により支援するJAFS本部「ぞうすいの会」 ◆里親の会を手作り和紙クラフトで支援する「アジア井戸ばたサロン」 ◆スリランカの提携団体を支援する「スリランカ・サルボダヤ友の会」 ◆日印友好学園コスモニケタンを支援する「日印友好学園支援会」 ◆ネパールの活動を支援する「ネパールへのかけ橋」 ◆料理を通じて水支援する「PAON」 ◆シルクロードを中心に文化を学び理解し合う「オアシス会」 ◆アジアの若手に育英資金を支給する「アジアネットワーク奨学会」 ◆ネパールの農村の医療・保健向上を支援する「ネパール地域医療支援会」 ◆飲料水支援をしたフィリピン・パندان町と交流する「パندان交流会」 ◆インド情報を「EBC配信で共有する「バート会」 ◆歌ってチャリティ支援をする「歌声サロン」 ◆インドのHIV家族を支援する「いのちの会枚方」 ◆ウォーキングによりアジアフレンドシップ夢基金を支援する「道楽の集い（歩く会）」 ◆フィリピンのマリーアンさんの大学進学を支援する「ハルハロ有志会」 ◆AFSネットワークの持続可能な維持を支援する「国際ネットワーク支援会」。

地で交流を深めるスタディツアーにより、日本人がアジアの現状を理解して連携できる機会をつくります。

防災と迅速な災害対応

ネパール・シンドバルチョーク郡での防災力強化事業は3年目に入り、その事例を他国にも応用していきます。能登やウクライナの被災者に対し、状況変化に応じた支援を続けます。

アジアの災害時にマイノリティを優先するため現地ネットワークを生かします。また迅速な災害対応のため、未然に支援チームや基金を整備します。

国内でも活動する仲間

アジアの社会課題解決や在留外国人との共生に取り組む仲間を国内に増やすことを目指し、支援してもらいやすい体制として、新規個人会員をメンバーサポーター・里親サポーターとして募集します。次世代を担う若者の支援者確保が大きな課題であり、事業やプログラムを見直し再構築します。

また当会の社会的役割や活動の目的・意義をより明確に示し、社会的ニーズに応えるため、イベント内容を見直し、より効果的な形で実施します。

広報もSNSに加え動画も活用し、支援現場の状況や成果を分かりやすく発信します。アジアの課題を自分ごととして捉え、支援やボランティア活動に参加する人の増加を目指します。

2025 年度 社員総会報告

公益社団法人アジア協会アジア友の会第14回社員総会を下記の通り開催しました。社員総数181名（2025年5月31日現在）のうち、出席社員数140名（会場出席者40名・議決権行使書提出者100名の合計）であり、定款の規定による定足数91名を充足し総会が成立しました。

議長については湯川 剛理事長が議事を進行しました。

日時: 2025年6月14日(土) 14時30分～ 16時

会場: 大阪科学技術センター（大阪市西区）

【決議事項】

第1号議案「監事選任」の件について、過半数の信任を得て、監事2名が選任されました。

第2号議案「2024年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、同附属明細書及び財産目録の承認」の件は、まず2024年度の事業報告を熱田事務局長代行が行い、続いて財務担当上野理事より、2024年度計算書類、

同附属明細書および財産目録について報告がありました。質問・意見は無く、過半数の信任を得て承認されました。

【報告事項】

①2025年度事業計画について

②2025年度収支予算書について

2025年度事業計画について、熱田事務局長代行より報告がありました。会員増強について渡辺会員委員会委員長より、数字目標を含めて協力要請がありました。2025年度予算については上野総務財務委員会委員長より報告がありました。

総会終了後に事業報告会を開催し、2024年度事業のうちバングラデシュ東部水害被災者支援と能登半島地震被災者支援について活動報告がありました。続く懇親会では会員同士が交流し親睦を深めました。

収支決算書（2024年4月1日～2025年3月31日）

[1] 収入の部 (単位円)				[2] 支出の部 (単位円)			
科 目	予算額	決算額	差 異	科 目	予算額	決算額	差 異
1. 会費収入	25,560,000	14,771,150	10,788,850	1. 事業費	77,270,000	63,293,095	13,976,905
(1) 社員会費収入	5,520,000	3,930,000	1,590,000	(1) 水事業	22,480,000	23,074,804	△ 594,804
(2) 維持会費収入	9,600,000	5,372,350	4,227,650	(2) 子ども事業	19,800,000	15,708,080	4,091,920
(3) 賛助会費収入	4,800,000	2,855,800	1,944,200	(3) 貧困事業	9,000,000	258,845	8,741,155
(4) 学生会費収入	0	0	0	(4) 環境事業	10,240,000	8,302,285	1,937,715
(5) 団体会費収入	600,000	160,000	440,000	(5) 国際ネットワーク推進事業	3,450,000	6,150,031	△ 2,700,031
(6) 法人賛助会費収入	5,000,000	2,450,000	2,550,000	(6) 人材育成・国際交流事業	3,700,000	352,867	3,347,133
(7) ジュニア会費収入	40,000	3,000	37,000	(7) 地域広報活動推進事業	6,000,000	6,524,169	△ 524,169
2. 寄付金・募金・補助金収入	178,720,000	184,703,179	△ 5,983,179	(8) 環境保全・教育文化事業	2,600,000	2,922,014	△ 322,014
3. 為替差益	0	0	0	2. 災害特別助成金支出			
4. 受取利息	0	7,064	△ 7,064	(1) 災害等罹災者支援事業	500,000	4,994,003	△ 4,494,003
5. 雑収入	0	34,353	△ 34,353	(2) ネパール地震復興支援事業	900,000	1,842,527	△ 942,527
当期収入合計 A	204,280,000	199,515,746	4,764,254	(3) ネパール防災力強化事業	80,000,000	73,655,148	6,344,852
前期繰越収支差額	15,665,456	15,665,456	0	(4) ウクライナ支援事業	5,750,000	330,000	5,420,000
収入合計 C	219,945,456	215,181,202	4,764,254	(5) 能登半島地震支援事業	3,850,000	0	3,850,000
				(6) バングラデシュ東部水害支援事業	0	31,175,205	△ 31,175,205
				(7) フィリピン台風支援事業	0	1,471,816	△ 1,471,816
				3. 管理費	36,010,000	21,128,007	14,881,993
				4. 退職給付支出	0	108,750	△ 108,750
				5. 退職給付引当資産取得支出	0	253,750	△ 253,750
				6. 海外等事業保証引当金支出	0	5,350,330	△ 5,350,330
				7. 基本財産振替支出	0	0	0
				8. 予備調整費	0	0	0
				当期支出合計 B	204,280,000	203,602,631	677,369
				当期収支差額 A - B	0	△ 4,086,885	4,086,885
				次期繰越収支差額 C - B	15,665,456	11,578,571	4,086,885

新監事紹介（2025～2027年度）

氏名	経 歴	氏名	経 歴
毛利吉男	株式会社カステロ 代表取締役	江南秀人	えなみ社会保険労務士事務所 代表者

※もう1名の監事（出口貴之）は任期中であり監事を継続します。

6月になった今日この頃、家のポストにナメクジが出没します。昨年の春はカメムシがたくさん発生していたのですが、今年は未だカメムシは見えていません。今年はナメクジの当たり年？

わが家では特に食害にあって困るような野菜や花を育ててはいないので、植物が食べられているのを発見してはいないのですが、ポストから取ってきた新聞や郵便物にナメクジがくっついていること多々あり。ナメクジがかじった穴がしっかりと丸く開いています。穴のせいで書いてある文の意味が読み取れなくなるほどの被害ではないので、実害はないのですが。

確かに紙は、植物繊維からできています。ナメクジにすれば、紙も他の植物と同じ食べ物の一種ということなのでしょう。栄養価は高くなさそうですが。ナメクジに、これは花、これは野菜、これは郵便…と区別が付いているとは思えません。

子どもの頃の私は、ナメクジ退治のために塩をかけて変化を見るのが好きでしたが、今はそう実害もないので、新聞や郵便物にくっついてきたナメクジをまた屋外に戻しているだけです。でも梅雨本番にでもなり、もっと困った状態になれば、ビールを試してみようと思っています。何年前前にも、ナメクジはビールで駆除できると聞いて、浅い容器にビールを入れて庭に置いたことがあり

ましたが、その時はナメクジが駆除された事実を確認できておらず、ビールを飲んでどこかで息絶えているのかな～ぐらいに思っていました。でも調べると、ビールでの撃退法は、ビールの酵母の匂いにおびき寄せられたナメクジが、ビールにダイブして溺れるように、深い容器に入れて、ダイブしやすいように容器の口が地面と同じぐらいの高さにくるように置かないといけないんですね。

もう少し調べていると、ナメクジには広東住血線虫などの寄生虫がいることがあり、ナメクジが這った跡のピカピカした粘液の白い線にも線虫が潜んでいる可能性があるんだとか。なのでこの粘液が付いたままの生野菜を食べると、寄生虫が体内に入り病気になる危険があるとのこと。知りませんでした。実害はあり得るんですね。これまで野菜は洗って食べていたから大丈夫だったのか。ちなみにナメクジはカタツムリの殻が退化したバージョンで仲間ということですが、フランス料理のエスカルゴ（カタツムリ）は、加熱して食べているから大丈夫、ということなんですね。

さらに調べて知ったナメクジの真実。ナメクジは雌雄同体（一匹の体内に雄雌両方の生殖器官がある）で、交尾の際は互いの精子を注入し合いどちらも産卵できるのだそうです。んー男女平等だ。（JAFSスタッフ 川本 裕子）

遺贈寄付で遺志をアジアへ

ご自身の大切な財産の一部を、JAFSへの遺贈（非課税）として生前に遺言に記していただくことにより、ご遺志をアジアの未来にお役立ていただけます。

遺された方が相続された遺産も、アジアの今後につながる寄付（非課税）として活かしていただくことができます。

編集後記

万博には目を向けず、身近な花鳥をめでて過ごしています。今年は涼しい日が多く、水無月の庭にアジサイが咲きそろいました。ところが、海外からは大雨や水害のニュース。穏やかな夏になってほしいのですが。（黒）

コロナ禍で4年間行けなかったインドネシア・アチエヘ植林と小学生との交流目的で行ってきた。子どもたちは20年前のスマトラ沖大地震を知らない。でも何の屈託もない笑顔に心が和む。だからまた行きたくなる。（裕）

音楽で束の間でも心の安らぎを！と、演奏者のご協力にて3カ所で実施した能登コンサート活動、訪問した避難所が、その後閉鎖。前に進む事は必要ですが、共に居る安心を失った皆さんの今が気になります。（典）

今 奈良公園は小鹿誕生の季節。2022年、天然記念

物奈良のシカ保護計画で、我が家も保護地区に含まれることに。庭の草花はいつも食べられてしまうが、動物と人間、経済と保全が共生できる町でありたい。（佳）

万博に行きました。入場もパビリオンも予約困難。何とか入場して予約不要の海外パビリオンだけ見学。アジアの国の多くは先進技術と環境配慮をPRしていると感じました。国として未来に目指すところなんですね。（川）



▲日本とインドネシアの大学生が
ごみ問題について英語で意見交換
し、距離が縮まり笑顔。2月22
日、インドネシア、ジャワ島・南
タングラン市、ひかりスクール

▲表紙の写真 完成した新校舎の前で、日本
から持参した文具を生徒一人一人に手渡す沖
田で夫妻と富田林地区の皆さん。3月30日、
ネパール、ナワルプル郡カワソティ市スリ
ーサントイ小学校。4〜7ページに特集記事



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人々を支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会
(JAFS)

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp

URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

HPもご覧ください

2025年7月 162号 発行人：篠原勝弘

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、岡本佳子、大本和子、柿島 裕、
川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



ご寄付をお願いします